

『森』を使うということ…



地球温暖化防止への取組として、二酸化炭素の吸収源である 森林の役割が注目されています。

地球温暖化防止には、温室効果ガス、中でも温暖化への影響がもっとも大きいとされる二酸化炭素の濃度を縮小させることがたいへん重要です。

森林は、その成長の中で二酸化炭素を吸収し、幹や枝などに長期にわたって蓄積することから、大気中の二酸化炭素の濃度が上昇するのを抑える働きをします。

従って、木材は炭素ガスの貯蔵庫として二酸化炭素を閉じ込めるため、木材を永く使うことは環境にとっても良く、“**木造住宅や木製家具は街の中に作られた小さな森林**”なのです。

スギ森林の再生と持続可能な活用を目指すことは、人と地球環境を 守り続ける有効な手段となります。

日本の森林は主にスギで構成されており、森林の機能を維持・強化していくためには植林などで混みすぎたスギの林を間伐で調整し、木々の発育を助けることが必要です。

年間のスギの成長量相当に需要を近づけられるような国産材の供給ができれば、日本で必要とされている木材を、輸入に頼らず国内で生産できることになります。

需要が伸びれば必然的に木材の調達が必要になり、森林の整備が行われていくというサイクルができあがります。

スギ材の商品開発は森林を活性化させ、地球環境を守ることに繋がっていくのです。

